

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170500959		
法人名	医療法人 聡仁会		
事業所名	グループホームさかい (1階)		
所在地	各務原市蘇原沢上町2丁目43番地		
自己評価作成日	平成29年7月18日	評価結果市町村受理日	平成29年9月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kami=trus&izvosvoCd=2170500959-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成29年8月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人が母体であり、医療連携が充実している。医師・看護師・リハビリ職・管理栄養士との連携の為、カンファレンスをしっかりと行ない、入所の段階でその方らしい生活ができ、その人に必要なサービスを考えスタッフに周知する事に力を注いでいます。ご家族様との関わりも出来る限り大切にご家族様の思いや意向を知る機会を作る為、話し合い、担当者会議を定期的に行なっている。地域との連携では地域の行事を自治会長様や包括から聞き、参加できるものは参加し、公園の掃除等も行なっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、周辺に商店や住宅が建ち並び、利便性の高い立地環境にある。地元のクリニックが運営母体であり、主治医は、利用者の症状や体調を細かく把握している。また、クリニックから、毎日数回、看護師の訪問があり、利用者と家族の安心感につながっている。法人は、福利厚生を充実させながら、職員の努力や実績の評価に努め、研修受講や資格取得を奨励している。管理者・職員は、常に利用者に関わり、一人ひとりに必要なサービスを提供し、その人らしい暮らしが継続できるように支援をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票(1階)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内に掲示してあり、適時確認を行っている。毎年、職員みなでその理念に基づいた目標を立て、それに向けた取り組みも行なう。年度末にはその取り組みの評価も行ない、法人内全体で共有している	法人理念の「地域に密着した医療と介護の提供」を基に、毎年、独自の目標を立て、支援に取り組んでいる。それらを法人全体で共有し、利用者が、住み慣れた地域の中で、安心して穏やかに暮らせるように支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な挨拶を行う。近隣の公園の清掃行事の参加、地域のお祭りの参加などでの交流を継続している	自治会の回覧板が回り、地域の清掃行事や祭り等に参加をしている。秋祭りには、神輿が事業所に立ち寄っている。近隣の幼稚園児との交流を行ったり、高校生の職場体験の受け入れ、地元住民の各種ボランティアの訪問など、利用者が楽しみながら、地域住民と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人全内での取り組みの中に、「介護の日」「まめサボ」*まめにサポート等、地域の方に向けた勉強会の開催を行っている。そこに事業所職員も参加し、地域貢献を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、毎回ご利用者様状況、サービス提供状況、入退所、職員状況を必ず報告、避難訓練の参加や評価を受けたり、利用者様と一緒にお茶をしながら日頃の様子を映像でご覧いただく等、出来るだけGH内の状態や様子を把握して頂き、ご意見ご要望を頂く場としている	運営推進会議には、近隣ケアグループや家族代表も参加している。事業所の活動、ヒヤリハットや事故等の報告を行い、意見を交わしている。また、サービスの在り方や避難訓練などをテーマに話し合い、運営に反映させている。利用者の様子は、映像で見てもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	会議で担当者が参加された時は、現状の報告の後、問題解決の為に糸口や他施設での出来事をお聞きして当施設に関連する事を参考にさせて頂いたり、助言を受けている	行政と地域包括支援センター担当者が運営推進会議に、交互に参加している。ホームの実情や困難事例を報告し、業界の情報や介護保険制度について助言を得ている。また、研修案内や空室情報等で、相互に良好な関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについては毎年勉強会を通して職員に周知、やむを得ない時はご家族の同意を得て最小限の時間帯に努め記録を残す等のケアに取り組んでいる。玄関の施錠に関しては、施設の設置場所から道路に面しており危険がある為、職員と一緒に出る以外は施錠している	職員は、身体拘束の弊害を学び、拘束をしないケアに取り組んでいる。利用者の状態によって、転倒の危険を伴う場合や止むを得ない場合は、家族に説明し、同意を得て対応している。その場合でも、短時間で解除をしている。また、低床ベッドやセンサーを利用するなど、工夫をしながら、拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会、ミーティングで職員全体に拘束と虐待の違いや、虐待にあたる行為等は周知し、注意を払っている。職員のストレスに関して上司が感じた場合は上司が受けとめ、出来る限りマネジメントに努め、ストレスが利用者に向けられる事がないよう声かけや文書での提出に努めている		

岐阜県 グループホームさかい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内で日常生活支援事業を利用して見える方が居る為、それに関わる方の出入りもあり、管理者・職員は必要性に関して学ぶ機会がある。その他のご利用者様に関してもその必要性等について話し合う場や情報収集に努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時、改定があった場合は常にその内容等をわかりやすく説明できる文書を作成し、説明同意を得ている。(契約書・重要事項説明だけでは不十分である為)		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的なアンケート、その集計や分析をし、その結果を運営推進会議やスタッフミーティングで話すなぞ運営に反映させている。その他、意見箱の設置やCS委員会の設置をし、話し合いの場を設けている	家族の意見や要望は、訪問時や電話・メール等で確認している。食事メニューの改善や外出についての意見がある。定期的なアンケート調査も行い、それらを検討しながら運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者と管理者は月一回のミーティングで、管理者と職員も月一回以上のミーティングで意見や提案を聞く機会を設けている。その他、職員面接も定期的に行ない、個々に面接も行っている	管理者は、毎月の職員会議で、職員からの意見や提案を聞いている。また、個別の相談にも応じている。休憩時間と場所の確保、書類の簡素化や有給休暇についての意見等を、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者(責任者)からの情報や、必要時は個々の面接も行ない、職員個々の努力や実績、勤務状況を把握する努力をしている。昇給金額の決定も責任者からの情報を基に決定し、勤続表彰(賞状・褒賞金)ポイント制度表彰(QUOカード・商品券)等モチベーション向上に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修委員会による、県・市・一般の研修の回覧を回したり、職員アンケートをとり、どのような研修参加を望んでいるかを調べて、法人内研修を年に10回以上開催したりし、自主性も高めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設部会やGH協議会への参加等、交流する機会に参加する事でサービス向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前には、その時点での担当者(ケアマネ等)がいればそこからの利用者の情報と一緒に面接する事であらたな情報収集に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前には、その時点での担当者(ケアマネ等)がいればそこからのご家族の情報と一緒に面接する事であらたな情報収集に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入前には、その時点での担当者(ケアマネ等)、主治医やその他、多職種で必ずカンファレンスを行い、アセスメント・計画書を作成していき職員に周知することに努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日中の生活の支援の中で、その方の出来る部分(ストレングス)を見つけ出す事や、やりたい事を探して生活の一部を職員と共に行なう事で、一日を有意義に過ごして貰えるよう支援している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様面会時にはご利用者様を交えての話し合いや、コミュニケーションをとったり施設行事のお知らせや参加の呼びかけ、来れない方へは近況をお伝えし、ご家族とご本人との絆を大切に支援している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の意向も踏まえ、ご家族との話し合いやご協力の下馴染みの関係や今までの習慣が途切れないよう支援している	友人や知人が気軽に訪れている。居室でゆっくり寛げるよう雰囲気づくりに努め、再訪につなげている。家族の協力を得て、行きつけの美容院や和菓子店など、馴染みの店へ出かけたり、一時帰宅をする利用者もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員仲介の下、利用者様の認知レベルや相性も把握していき、トラブルや孤立化のないよう、フロアーでの席替えや、間に入りお話をするなどの支援を常に心がけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もお会いする機会が多い方が多く、関係性は大切にしている。電話やご相談があった場合も対応し、その後の生活に関わるようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントや担当者会議を通して、本人やご家族の思いや意向を聞きだし、可能な限り沿うように努めている	在宅当時のケアマネジャーや、家族からも本人の生活歴や暮らしぶりを聞き取っている。好きなことや苦手なこと、趣味などを把握し、それらを職員間で共有し、一人ひとりが、その人らしく暮らせるように支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや、サービス導入前の担当者(ケアマネ等)からも入所前の生活環境・習慣などを聞きだし、施設での過ごし方を考えるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所後もその方の習慣・癖を把握し、職員が周知した上で対応するよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネジャーや計画作成者が介護計画を立てた後、居室担当者や他の職員の気づきやヒヤリハットを通して定期的な話し合いを持ち、モニタリングしていき、介護計画に反映していくよう努めている	家族の意向と主治医や看護師の助言を踏まえ、モニタリングを行い、介護計画を作成している。一人ひとりのニーズに合わせた見直しや、自立性や残存機能を活かせるよう関係者で話し合い、介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日報・クリニックへの報告書・介護記録・支援経過等、それぞれの職種でケアや経過を記載したものが、それらを通して主治医・看護師・ケアマネ・介護職員間で共有しモニタリング・介護計画に反映している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの自立性や残存機能を生かす為、主治医・看護師・リハビリの先生や管理栄養士が毎日の様に訪問し、その方々のニーズに対応し生活していけるよう、またその為の話し合いも持ち柔軟な支援に努めている		

岐阜県 グループホームさかい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方が行なっている音楽療法を定期的な訪問して頂いたり、併設のデイサービスに来られるボランティアさんや慰問に参加できるよう努め、充実した一日を過ごして頂けるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者はほぼ母体のクリニックが主治医であり、主治医は定期的な診療以外も、変化があればすぐに駆けつける。医療連携体制加算による看護師の訪問は一日3回程度あり、体調管理・医療は適切に受ける等、事業所との関係は築けている	ほとんどの利用者が法人のクリニック医師を、かかりつけ医としている。クリニックは事業所の目の前にあり、24時間体制で対応できる。専門病院や他の医療機関へは、家族受診とし、投薬や医療情報は、関係者で共有し、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設するクリニックにほぼ毎日体調管理の報告をし、それにより必要な処置は看護師が来るなど、体調管理、連携は十分できている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院搬送される際は、介護記録等を持ち病院へほぼ同時に行き、搬送先で知りたい情報を伝える等の努力をしている。入院後早急に情報作成を行い書面でも渡すなどしている為、入院中も連携を取って頂けたり、退院後もサマリーを頂ける等関係を築けている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に看取り迄行なっている事は伝えておくが、重度化、終末期、入院希望が無い場合等は、ご家族と話し合い、医師説明後、同意を取り、看取り時期の記録に切り替え職員は記録を残す等の方針を職員全てが周知している。併設するクリニックの多職種と連携をとり最期の時を迎える事ができるよう支援している	重度化や終末期の指針を、契約時に本人・家族に説明し、同意書を交わしている。段階的に、主治医と家族で話し合い、方針を決め、穏やかに最期を迎えられるよう、全職員で看取り支援に取り組んでいる。開設以来、十数例の看取り実績がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員がその訓練を十分に受け実践力をつけてはいないが、一部の職員は急変時の対応ができる。当事業所の場合、併設するクリニック、また協力医は常にあり、指示を受けたり連絡体制は整っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時マニュアルも作成し、定期的に訓練は受け身につけるように努めている。運営推進会議では訓練に参加してもらい意見を頂くなどし、地域への協力も呼び掛けている	年に2回、消防署立ち合いの下、火災や地震、夜間を想定した災害訓練を行っている。運営推進会議のメンバーも参加し、誘導や見守り等では、住民の協力体制がある。防災マニュアルを整え、災害時に備えている。	災害時に備え、利用者の安否確認方法、服薬情報等の医療情報、避難場所など、家族や関係者に周知し、共有を図られることに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し排泄や入浴時等、言葉を選んで声掛けしたり、プライバシーに配慮する等の支援に心掛けている	言葉かけは、その人の目線に合わせ、耳元でゆっくりと話しかけている。利用者の生活歴や思い出話など、傾聴に努めている。入浴や排泄時には、羞恥心に配慮し、自尊心を損ねない対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉や素振りでご利用者様の伝えたい事を把握していき自分で決めて頂く場面を作ることに心掛けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入所したばかりの方を除いてはその方らしい一日はパターン化してくるが、一人ひとりのペースは大切にして意思を尊重して個別的な支援に心掛けている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方らしい身だしなみを援助し、髪は定期的に訪問美容の美容院の方にカットや毛染めをして頂く。お化粧品やマニキュア等、職員と楽しく行なう事でご利用者様の生き活きた表情は見られる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は基本厨房から作られて来るので一緒に作る事はないがおやつは出来る事があれば一緒に行なう機会を作っている。片付けもできる利用者様がみえる時は出来る部分をお願いする機会を作るよう心掛けている	利用者が食べたい献立は、日々の会話の中で聞き取っている。食事形態は、個々の嚥下状態に合わせ、とろみや刻み食等を提供している。食事作りについては、感染症予防対策として、利用者参加は行っていない。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士がカロリー計算し、ご利用者様の希望も踏まえ、量、栄養バランス・水分量は常にチェック記録し、主治医や管理栄養士に伝え指示を受ける。経口摂取が難しくなった時は医療により点滴を受ける等、医療連携を十分行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは促して出来る方は見守り程度で介助が必要な方は介助し口腔ケアを行っている。寝たきりの方は全介助で行ない、看取り時期は看護師も一緒に行なう		

岐阜県 グループホームさかい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記録しており、職員共有で排泄パターンを把握し、声掛けやトイレ介助、オムツ交換などを行っている	一人ひとりの身体状況や、排泄パターンに合わせ、声かけや誘導を行っている。排泄の自立と維持・向上を目指し、支援に努めている。夜間は、安全面を考慮し、おむつを使用する利用者もある。おむつ用品の交換は、羞恥心に配慮し、居室で行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	常に管理栄養士における腸内環境を整える為の乳酸菌飲料の飲用は行なっているが、排泄チェック表で、ご利用者様の排便状態がいつもと変化した場合は、医師や看護師に報告し、指示を受けている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴好きな方、お好きでない方等の把握がしてある上で入浴の計画があり、それに沿った入浴日をそれぞれ設けてある。入浴時のその方の習慣や療自立支援も含めて職員が周知し共有した支援を行うよう心掛けている	利用者の習慣やこだわりに沿った入浴を支援している。重度者には、シャワー浴や足湯で代替えし、心地よさを味わってもらっている。気が進まない時や身体状態によっては、個別の対応を工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活リズムを整え、昼夜逆転のある方は医師や看護師にも相談し、夜間安眠していける工夫や支援をしている。日中の傾眠が強い方に対してだけは、体調をみつつ、声かけやお話をするなど工夫して、時間をみつつ臥床して頂く		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	クリニックの医師・看護師の指示を受けながら、薬情の管理もし、服薬の援助方法を職員で統一して行なっている。症状変化に対しても常に連携をとっている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や習慣、趣味や生きがいであった事等、ご家族やご本人からお聞きし、可能な限りそれに近い張り合いや楽しみが持てるよう支援する事に心掛けている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調管理を行い、クリニックとの連携の下、外出支援の計画をたてて戸外へでかけられるような支援に心掛けている	天候に応じて、車椅子の利用者も一緒に近隣を散歩している。また、ホームの庭で、ゆったりと花を眺めながら、お茶会なども楽しんでいる。墓参りや美容院など、本人が希望する場所へは、家族の協力を得て、出かけている。年間行事では、初詣や、桜、紫陽花、紅葉狩りなど、季節を感じられる外出支援を行っている。	

岐阜県 グループホームさかい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に関してご家族様と話したい方にはその機会を設けるよう支援する。ご利用者様のお小遣いを一定額事業所で預かっており、買い物ツアー等でお金を使う機会を設けている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様・ご家族様の依頼があれば取次を行う。郵便物をご理解される方にはご本人渡し。ご家族から依頼されていればご家族渡しをする。年賀状などお返事したいものはお手伝いして作成し投函の支援を行う		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間はいつでも清潔に使用できるように清掃をこまめに行なう。フローターには季節感のある植物などを机に飾る。温度や湿度は管理して空調で調節する。音や光は不快感のないよう心掛けている	共用の間の近くには、利用者が使いやすいように、トイレや浴室、洗面台があるが、清掃が行き届き、においもなく、清潔感がある。ゆったりとした寛げるソファの周りには、手づくり作品や季節感のある植物を置いて、明るく風通しのよい生活空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとり自分の席がある。隣の方との相性や口論があれば席替えをそれとなく変えたり、机全体を配置換えして気分転換をはかたりする。男性で静かにしたい方は少し離れた場所を作る等して試行錯誤を繰り返しているが工夫を行っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の時点で住み慣れた居室の物を居室に入れ運んで頂いている。居室は本人の落ち着かれるようにご家族と共に工夫する事を心掛けている	居室には、使い慣れた整理ダンスなどの家具類を持ち込み、家族と相談しながら、配置を工夫している。家族の写真や小物を飾り、自分の部屋らしく、落ち着いて過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な環境作りは常に配慮し、危険だと思われる物は手すりやコールなどを設置して、本人の出来る事はして頂き、支援して欲しい時呼べる様にも配慮してある。個々の自立支援に心掛けている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170500959		
法人名	医療法人 聡仁会		
事業所名	グループホームさかい (2階)		
所在地	各務原市蘇原沢上町2丁目43番地		
自己評価作成日	H29年7月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成29年8月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	適いの場合やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(2階)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内に掲示しており、適時確認を行っている。毎年、職員みんなでその理念に基づいた目標を立て、それに向けた取り組みも行なう。年度末にはその取り組みの評価も行ない、法人内全体で共有している		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な挨拶を行う。近隣の公園の清掃行事の参加、地域のお祭りの参加などでの交流を継続している		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人全内での取り組みの中に、「介護の日」「まめサポ」*まめにサポート等、地域の方に向けた勉強会の開催を行っている。そこに事業所職員も参加し、地域貢献を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、毎回ご利用者様状況、サービス提供状況、入退所、職員状況を必ず報告、避難訓練の参加や評価を受けたり、利用者様と一緒にお茶をしながら日頃の様子を映像でご覧いただく等、出来るだけGH内の状態や様子を把握して頂き、ご意見ご要望を頂く場としている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	会議で担当者が参加された時は、現状の報告の後、問題解決の為の糸口や他施設での出来事をお聞きして当施設に関連する事を参考にさせて頂いたり、助言を受けている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについては毎年勉強会を通して職員に周知、やむを得ない時はご家族の同意を得て最小限の時間帯に努め記録を残す等のケアに取り組んでいる。玄関の施錠に関しては、施設の設置場所から道路に面しており危険がある為、職員と一緒に出る以外は施錠している		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会、ミーティングで職員全体に拘束と虐待の違いや、虐待にあたる行為等は周知し、注意を払っている。職員のストレスに関して上司が感じた場合は上司が受けとめ、出来る限りマネジメントに努め、ストレスが利用者に向けられる事がないよう声かけや文書での提出に努めている		

岐阜県 グループホームさかい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内で日常生活支援事業を利用して見える方が居る為、それに関わる方の出入りもあり、管理者・職員は必要性に関して学ぶ機会がある。その他のご利用者様に関してその必要性等について話し合う場や情報収集に努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時、改定があった場合は常にその内容等をわかりやすく説明できる文書を作成し、説明同意を得ている。(契約書・重要事項説明だけでは不十分である為)		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的なアンケート、その集計や分析をし、その結果を運営推進会議やスタッフミーティングで話すなぞ運営に反映させている。その他、意見箱の設置やCS委員会の設置をし、話し合いの場を設けている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者と管理者は月一回のミーティングで、管理者と職員も月一回以上のミーティングで意見や提案を聞く機会を設けている。その他、職員面接も定期的に行ない、個々に面接も行っている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者(責任者)からの情報や、必要時は個々の面接も行ない、職員個々の努力や実績、勤務状況を把握する努力をしている。昇給金額の決定も責任者からの情報を基に決定し、勤続表彰(賞状・褒賞金)ポイント制度表彰(QUOカード・商品券)等モチベーション向上に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修委員会による、県・市・一般の研修の回覧を回したり、職員アンケートをとり、どのような研修参加を望んでいるかを調べて、法人内研修を年に10回以上開催したりし、自主性も高めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設部会やGH協議会への参加等、交流する機会に参加する事でサービス向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前には、その時点での担当者(ケアマネ等)がいればそこからの利用者の情報と一緒に面接する事であらたな情報収集に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前には、その時点での担当者(ケアマネ等)がいればそこらのご家族の情報と一緒に面接する事であらたな情報収集に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入前には、その時点での担当者(ケアマネ等)、主治医やその他、多職種で必ずカンファレンスを行い、アセスメント・計画書を作成していき職員に周知することに努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日中の生活の支援の中で、その方の出来る部分(ストレングス)を見つけ出す事や、やりたい事を探して生活の一部を職員と共に行なう事で、一日を有意義に過ごして貰えるよう支援している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様面会時にはご利用者様を交えての話し合いや、コミュニケーションをとったり施設行事のお知らせや参加の呼びかけ、来れない方へは近況をお伝えし、ご家族とご本人との絆を大切に支援している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の意向も踏まえ、ご家族との話し合いやご協力の下馴染みの関係や今までの習慣が途切れないよう支援している		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員仲介の下、利用者様の認知レベルや相性も把握していき、トラブルや孤立化のないよう、フロアでの席替えや、間に入りお話をするなどの支援を常に心がけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もお会いする機会が多い方が多く、関係性は大切にしている。電話やご相談があった場合も対応し、その後の生活に関わるようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントや担当者会議を通して、本人やご家族の思いや意向を聞きだし、可能な限り沿うように努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや、サービス導入前の担当者(ケアマネ等)からも入所前の生活環境・習慣などを聞きだし、施設での過ごし方を考えるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所後もその方の習慣・癖を把握し、職員が周知した上で対応するよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーや計画作成者が介護計画を立てた後、居室担当者や他の職員の気づきやヒヤリハットを通して定期的な話し合いを持ち、モニタリングしていき、介護計画に反映していくよう努めている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日報・クリニックへの報告書・介護記録・支援経過等、それぞれの職種でケアや経過を記載したものが、それらを通して主治医・看護師・ケアマネ・介護職員間で共有しモニタリング・介護計画に反映している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの自立性や残存機能を生かす為、主治医・看護師・リハビリの先生や管理栄養士が毎日の様に訪問し、その方々のニーズに対応し生活していけるよう、またその為の話し合いも持ち柔軟な支援に努めている		

岐阜県 グループホームさかい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方が行なっている音楽療法を定期的 に訪問して頂いたり、併設のデイサービスに 来られるボランティアさんや慰問に参加でき よう努め、充実した一日を過ごして頂ける よう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、 納得が得られたかかりつけ医と事業所の関 係を築きながら、適切な医療を受けられるよ うに支援している	利用者はほぼ母体のクリニックが主治医で あり、主治医は定期的な診療以外も、変化が あればすぐに駆けつける。医療連携体制加 算による看護師の訪問は一日3回程度あり、 体調管理・医療は適切に受ける等、事業所と の関係は築けている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報 や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師 等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な 受診や看護を受けられるように支援している	併設するクリニックにほぼ毎日体調管理の 報告をし、それにより必要な処置は看護師が 来るなど、体調管理、連携は十分できている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるよ うに、又、できるだけ早期に退院できるよう に、病院関係者との情報交換や相談に努め ている。あるいは、そうした場合に備えて病院 関係者との関係づくりを行っている	入院搬送される際は、介護記録等を持ち病 院へほぼ同時に行き、搬送先で知りたい情 報を伝える等の努力をしている。入院後早急 に情報作成を行い書面でも渡すなどしている 為、入院中も連携を取って頂けたり、退院後 もサマリーを頂ける等関係を築けている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、 早い段階から本人・家族等と話し合いを行 い、事業所でできることを十分に説明しな がら方針を共有し、地域の関係者と共にチ ームで支援に取り組んでいる	入所時に看取り迄行なっている事は伝えて おくが、重度化、終末期、入院希望が無い 場合等は、ご家族と話し合い、DR説明後、同意 を取り、看取り時期の記録に切り替え職員は 記録を残す等の方針を職員全てが周知して いる。併設するクリニックの多職種と連携を とり最期の時を迎える事ができるよう支援 している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全 ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定 期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員がその訓練を十分に受け実践 力をつけてはいないが、一部の職員は急 変時の対応ができる。当事業所の場合、 併設するクリニック、また協力医は常 にあり、指示を受けたり連絡体制は整 っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問 わず利用者が避難できる方法を全職員が 身につけるとともに、地域との協力体制 を築いている	災害時マニュアルも作成し、定期的に訓 練は受け身につけるように努めている。 運営推進会議では訓練に参加してもら い意見を頂くなどし、地域への協力も 呼び掛けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し排泄や入浴時等、言葉を選んで声掛けしたり、プライバシーに配慮する等の支援に心掛けている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉や素振りでご利用者様の伝えたい事を把握していき自分で決めて頂く場面を作ることに心掛けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入所したばかりの方を除いてはその方らしい一日はパターン化してくるが、一人ひとりのペースは大切にして意思を尊重して個別的な支援に心掛けている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方らしい身だしなみを援助し、髪は定期的に訪問美容の美容院の方にカットや毛染めをして頂く。お化粧品やマニキュア等、職員と楽しく行なう事でご利用者様の生き活きた表情は見られる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は基本厨房から作られて来るので一緒に作る事はないがおやつは出来る事があれば一緒に行なう機会を作っている。片付けもできる利用者様がみえる時は出来る部分をお願いする機会を作るよう心掛けている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士がカロリー計算し、ご利用者様の希望も踏まえ、量、栄養バランス・水分量は常にチェック記録し、主治医や管理栄養士に伝え指示を受ける。経口摂取が難しくなった時は医療により点滴を受ける等、医療連携を十分行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは促して出来る方は見守り程度で介助が必要な方は介助し口腔ケアを行っている。寝たきりの方は全介助で行ない、看取り時期は看護師も一緒に行なう		

岐阜県 グループホームさかい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記録しており、職員共有で排泄パターンを把握し、声掛けやトイレ介助、オムツ交換などを行っている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	常に管理栄養士における腸内環境を整える為の乳酸菌飲料の飲用は行なっているが、排泄チェック表で、ご利用者様の排便状態がいつもと変化した場合は、医師や看護師に報告し、指示を受けている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴好きな方、お好きでない方等の把握がしてある上で入浴の計画があり、それに沿った入浴日をそれぞれ設けてある。入浴時のその方の習慣や癖自立支援も含めて職員が周知し共有した支援を行うよう心掛けている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活リズムを整え、昼夜逆転のある方は医師や看護師にも相談し、夜間安眠していける工夫や支援をしている。日中の傾眠が強い方に対してだけは、体調をみつつ、声かけやお話をするなど工夫して、時間をみつつ臥床して頂く		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	クリニックの医師・看護師の指示を受けながら、薬情の管理もし、服薬の援助方法を職員で統一して行なっている。症状変化に対しても常に連携をとっている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や習慣、趣味や生きがいであった事等、ご家族やご本人からお聞きし、可能な限りそれに近い張り合いや楽しみが持てるよう支援する事に心掛けている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調管理を行い、クリニックとの連携の下、外出支援の計画をたてて戸外へでかけられるような支援に心掛けている		

岐阜県 グループホームさかい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に関してご家族様と話したい方にはその機会を設けるよう支援する。ご利用者様のお小遣いを一定額事業所で預かっており、買い物ツアー等でお金を使う機会を設けている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様・ご家族様の依頼があれば取次を行う。郵便物をご理解される方にはご本人渡し。ご家族から依頼されていればご家族渡しをする。年賀状などお返事したいものはお手伝いして作成し投函の支援を行う		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間はいつでも清潔に使用できるよう清掃をこまめに行なう。フローアーには季節感のある植物などを机に飾る。温度や湿度は管理して空調で調節する。音や光は不快感のないよう心掛けている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとり自分の席がある。隣の方との相性や口論があれば席替えをそれとなく変えたり、机全体を配置換えして気分転換をはかったりする。男性で静かにしたい方は少し離れた場所を作る等して試行錯誤を繰り返しているが工夫を行っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の時点で住み慣れた居室の物を居室に入れ運んで頂いている。居室は本人の落ち着かれるようにご家族と共に工夫する事に心掛けている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な環境作りは常に配慮し、危険だと思われる物は手すりやコールなどを設置して、本人の出来る事はして頂き、支援して欲しい時呼べる様にも配慮してある。個々の自立支援に心掛けている		